

今太木材株式会社

■事業

ほんざね加工対応「かな設備」導入による
新商品開発及び生産効率向上を図る経営再建計画

■対象類型

ものづくり技術

■導入機械装置

マルチ四面かな盤 KFP-S500型

当日発注、当日入荷にも対応 フットワークの良さと技術力に強み

【経営理念】

ピンチはチャンス

19世紀末に旅籠(はたご)として創業した後、日露戦争やJR山陰本線建設などによる材木需要の高まりを受け、材木業を起業した今太木材株式会社。一時は、約5000坪もの大規模な製材所を有していたが、火災により工場を焼失して以降は、木材加工業に業種転換し、島根県内企業の需要に対応してきた。現在は、売り上げの約95%を地元、日立金属安来工場と日立物流発注の輸出梱包用木箱が占め、ほかに測量杭(くい)や丁張用板などの建材も取り扱っている。

メインで生産している木箱は、側面に凹凸の加工が施された、ほんざね加工板を組み合わせて作るもので、強度が高いのが特長。船で長時間かけて欧米などのメーカーへ輸送されるため、腐食防止のため熱処理した材木を加工している。ほんざね加工の板を用いた木箱は、日立金属などが生産した特殊鋼素材などを梱包・輸送しても十分な耐荷力、耐久性があり、重宝されてきた。同社から主要取引先の日立金属や日立物流などへは、車で5分程度の距離にあることもあり、ニーズによっては当日発注、当日入荷にも対応するフットワークの軽さが強みだ。

マイコン操作で加工可能な新設備導入 生産性向上と高品質化で安定的供給可能に

しかし、既存の設備は稼働から既に40年以上経過しており、動きが悪くなっていた。数十年の経験があるベテラン職人が技術力で補いながら作業しているのが実態で、職人が体調を壊したり、機械が故障したりすれば、業務がすべてストップしてしまう懸念があった。そこで新しく、ほんざね加工対応のかな盤を導入。簡単なマイコン操作で、木材を加工できるため、入社1カ月の新入社員でも携われるようになった。さらに、従来は削り終わるまで板に手を添えておく必要があった上、2面ずつしか削れなかったのに対し、4面を一度に



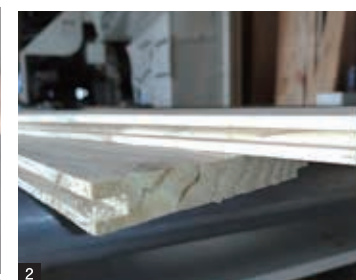
ほんざね加工板を組み合わせて作られた耐荷性のある木箱

☒ものづくり技術 ☐革新的サービス



1

1 導入した新たなかな盤
2 ほんざね加工を施した木材



2

自動で削ることが可能になったため、作業時間が半分に短縮。削り面がシャープに仕上がるなど、品質も格段に良くなった。設備導入後、木箱の売り上げは約3割増となった。小池奨・営業部主任は「強い属人性から脱却し、安定的な供給が可能になりました」と話す。

幅を広げた技術力を武器に新規市場開拓へ 福祉事業参入で経営基盤を強化

そんな中、新型コロナウイルス感染症拡大や、日立製作所による日立金属の株式売却の影響を受け、受注額が激減。「事業内容や取引先が偏っていたため、ダメージは大きく、経営基盤の見直しを余儀なくされました」と小池主任。新設備の導入で、加工技術の幅が広がったこともあり、今後は新規顧客や新規市場開拓を狙う。また2021(令和3)年4月に障がい児を対象にした放課後等デイサービス施設を立ち上げたほか、2022(令和4)年春を目指して、高齢者向けの新サービス事業も展開する予定だ。「120年という歴史ある会社だからこそ地域からの信用もあり、新事業も立ち上げることができています。木材加工業の幅を広める一方、福祉事業にも力を注ぐことで地域への恩返しができる」と小池主任は地域密着への意気込みを語る。

■Company Data

今太木材株式会社



敷地内で天日干しされる木材

代表者名：相川幹裕
設立年：1899(明治32)年
資本金：10,000千円
従業員数：木製品製造業9名、福祉事業12名、計21名
主たる業種：木製品製造業、福祉事業、不動産賃貸業
本社：〒692-0011
安来市安来町2141
電話：0854-22-3480
FAX：0854-22-6373